

関西の景気ピックス【雇用関連（25年4月）】

- 25年4月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は2.8%（原数値）と、前年比で0.2ポイントの低下となった。前年比での低下は5か月連続。変化の内訳は、就業者数が前年比で21万人の増加となり、失業者は1万人の減少、非労働力人口は24万人の減少となっている。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、25年4月は1.16倍（季節調整値）と前月比で横ばいとなった。ここ半年程度の動きをみる限り、求人への動きに大きな方向感を感じられない。
- 関西の有効求人・求職動向をみると、有効求人、有効求職ともに緩やかな減少傾向にある。求人数の減少もさることながら、求職者の減少は気になる動きであり、今後の人手不足解消に向けても良くないサインといえよう。
- 新規求人・求職動向でみると、求職者の減少はさらに顕著となっており、22年以降は緩やかな減少傾向が続いている。

